

**チェコ共和国：  
原子力はなお有意義であることを  
いかに示せるか**

**ヴァーツラフ バルトウシュカ  
チェコ共和国外務省  
エネルギー安全保障特使**

**日本原子力産業協会 年次大会  
2013年4月24日、東京**

# 現在のエネルギーミックス

- 石炭60%
  - 原子力30%
  - 再生可能エネルギー10%
- 
- チェコ共和国は、(フランスに次ぐ)EU第2の電力輸出国
  - 原子炉6基(4,000MW)の収益性が最も高い

# 2030年戦略

- 石炭発電を30%に減らす
- 原子力発電を50%に増やす
- 再生可能エネルギーを20%に増やす
  
- テメリンにさらに2基の原子炉(3号機・4号機)、  
場合によってはドウコヴァニにもう1基(5号機)
- 再生可能エネルギー: 補助金を最小限に減らし、  
市場の働きに委ねる

# なぜ原子力なのか？

- **安全と考えられている**  
(長期にわたり国民支持率が70%)
- **信頼できる原子力規制者**  
(Ms. Drabova, Mr. Krs, Mr. Stullerほか)
- **歴史: チェコスロバキアでは、原子炉24基と蒸気発生器、タービン等を製造**
- **経済的に合理性がある**

# テメリン入札

- これが**長期的なコミットメント**になることは承知しており、以前にもやり遂げている
- 2007年：開始
- 2009年：一次選考  
(アレヴァ、ロスアトム、ウェスティングハウス)
- 2011年：入札ドキュメンテーション  
(6,000ページ、11,000項目の質問)
- 2012年：入札  
アレヴァを却下(基準を満たしていない)

# テメリン入札—最終選考

- 最終選考：ロスアトムとウェスティングハウス
- 事前評価は、2013年3月に入札者に送付済み。両者ともに大いに改善の余地あり
- 決定は2013年夏  
—どちらも選ばれない可能性あり

# 大局的状況—安全保障

- 資源(エネルギー資源だけではない)を巡って、さらに紛争が増えると想定している
- **安全な供給源**(国産の石炭、原子力)を基本とするエネルギーは理にかなっている
- 繰り返されるガス危機(ロシア～ウクライナ):  
ガス火力発電所なし

# 大局的状况—欧州

- EU加盟国であることが誇りである
- エネルギーミックスを**選択する自由**
- 「ヨーロッパ人だから、原子力の話は無しでお願いします」  
—それでも27ヶ国中14ヶ国は原子力発電所を抱えている



# 反対論者

- 原子力には国民の反対の声が必要である：  
電力会社を信頼してはならない
- 問題：物理学「ハードサイエンス」を理解する  
人が少なくなっている
- 「電気は必要ない、ろうそくの明かりでテレビ  
が見える」

# 未来

- 民主主義国家においてさえ、**原子力には未来がある**
- ノウハウの喪失とサプライチェーンの崩壊が最大の障害である
- 科学・工学を学ぶ若者が不足する状況で、**技術社会を保てるか？**

ご清聴ありがとうございました。

vaclav\_bartuska@ mzv.cz